

2016年度 S G H成果発表会を開催しました。

2017年3月8日(水)に4年生・5年生が参加して、広島県民文化センターふくやまにおいて以下のような日程で「2016年度 S G H成果発表会」を行いました。

1. 場所 広島県民文化センターふくやま(広島県福山市東桜町 1-21)
2. 日程
 - ①開式行事
 - ②「体験グローバル」課題研究発表
 - ③「体験グローバル」・「スーパーグローバル」 タイ研修報告
 - ④文部科学省「トビタテ！留学 JAPAN」報告
 - ⑤広島県「グローバル未来塾 in ひろしま」報告
 - ⑥「提言 I」課題研究発表
 - ⑦「提言 I」・「スーパーグローバル」上海研修 報告
 - ⑧ご講評
 - ⑨閉式行事

当日は保護者や教育関係者、課題研究にご協力いただいた企業などから多数出席を頂き、盛大に開催することができました。各発表の具体については以下ようになります。

「体験グローバル」課題研究発表

「体験グローバル」では、テーマとして設定している4つの領域（「技」・「特許」・「環境」・「食」）について、5名で編成した班体制で昨年10月以降課題研究を進めてきました。成果発表会では、各領域から選出された一班がそれぞれ発表を行いました。発表を行った班の発表題目は以下の4つでした。

【技】「水素社会の形成 —燃料電池自動車が拓く M I R A I—」

【特許】「カーブでがっちり —優勝の先の勝利とは—」

【環境】「輛の浦埋め立て架橋計画問題について」

【食】「遺伝子組み換え作物って何？ —私たちの今後の食生活はどうなるのだろうか—」



「体験グローバル」タイ研修報告

今年1月に行われたタイ研修に参加した4年生の10名を代表して3名が、研修の活動報告を行いました。タイ研修は現地の視察を通して実際に感じたことをもとに、帰国後、担当の先生の指導を受けながら文献等による調査を重ね研究を深めレポートを作成しています。報告では、「宗教」「観光」「語学」を大きな柱に、タイの人々の信仰心やそこから見えてくる宗教的寛容であることの重要性、グローバル化の中で観光による外国人の集客と、外国人に対応するための英語を中心とした語学力の必要性などを発表しました。



文部科学省「トビタテ！留学 JAPAN」報告

文部科学省は、「意欲と能力ある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一步を踏み出す気運を醸成する」ことを目的として、2013年10月から留学促進キャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN」を開始しました。そのプログラムに採用された4年生1名が、留学中の取り組みだけでなく、事前研修や事後研修も含めて報告をしました。（留学中に実際取り組んだ報告については、英語で行いました）

「自分の学びと成長は自分で責任を持って」という研修の中で教わった言葉などを紹介しながら、プログラムを通して内気だった自分が変わったこと、留学経験が自分の人生や進路を考える上で大きなきっかけとなったことを発表しました。



広島県「グローバル未来塾 in ひろしま」報告

「グローバル未来塾 in ひろしま」は、「国際平和拠点ひろしま構想」の取組の一つとして、高校生世代に、将来、国際平和を希求し世界的に活躍できる人材を目指してくれるよう、英語力、核軍縮や紛争解決などの国際的課題を学び、将来への第一歩を踏み出すために広島県が行っているプログラムです。今年度このプログラムに参加した5年生1名がその報告を行いました。報告では、プログラムの中で訪れたフィリピンでの研修について、研修を通して強く学んだ「国際的であるにはナショナルであれ」といったことを英語も使いながら発表しました。



「提言Ⅰ」課題研究発表

5年生の選択科目である「提言Ⅰ」（今年度選択者76名）は昨年4月より体験グローバルで学習した課題研究の方法を活かして個人で研究課題を進めてきました。研究は研究分野やテーマが似た数名でグループを作り、それぞれのグループに担当教員がつくかたちで研究の進捗状況を定期的に報告しあい生徒や教員から意見やアドバイスをもらいながら大学のゼミのようなかたちで研究を進めてきました。発表会ではその中から3名が代表して発表を行いました。発表題目は以下の3つです。



「福山市の救急医療が抱える問題 一年々増える軽症者による救急受診数一」

「ライム距離による言葉の分析」

「積極的に意見を伝える力と言語の関係 一聞く態度の重要さ一」（すべて英語で発表し、質疑も英語で行われました。）

「提言Ⅰ」・「スーパーグローバル」上海研修報告

昨年6月末から7月にかけて行った上海研修に参加した5年生の10名を代表して2名が、研修の活動報告を行いました。卒業生の協力を得て総領事館や総合商社などを訪問することができ、世界で活躍する先輩から刺激を受けたり、同じ東アジアに位置する中国には日本と同じ文化や風習があることを訪問先から学んだりしたことの報告がありました。一方で、上海市大同中学の生徒との「伝統文化」「高校生活」「食文化」をテーマにした英語による議論から、身近なことでも考え方に違いがあることを実感し、様々な見方・考え方を受け入れることの大切さを学ぶことができたことなどを発表しました。



ご講評

発表会の最後に、運営指導委員である国立教育政策研究所の大杉昭英先生、岡山理科大学の岡本弥彦先生、立教大学の松本茂先生からご講評をいただきました。大杉先生からは、“ダイバーシティ”をキーワードに様々な立場の人と交流や対話、議論し、そして合意に導くことができる能力の重要性をお話いただきました。岡本先生からは、研究を進める上で「独創性」と「新奇性」が大切であること、そしてそれらを兼ね備えるためにはテーマ設定が大切であることを生徒にアドバイスしてくださいました。松本先生から、学年が上がるにつれて研究の質が向上していて、研究する力が着実に積み上げられていることを評価していただきました。一方で、研究を通して主張したいことを裏付けるデータの信憑性や信頼性を研究の中で十分に検証していくことが大切であることをアドバイスしてくださいました。3名の運営指導委員の先生方からは、発表会後の運営指導委員会でも3年目に入る来年度の当校のSGGHの取り組みに対して、示唆に富むお言葉をたくさんいただくことができました。

